

平山議員 3番、平山です。よろしくお願ひ申し上げます。それでは、通告してありました2点質問させていただきます。まず初めに、牟岐町立牟岐保育園の時間外保育についてお伺ひします。近年、行政を取り巻く環境や住民意識の変化により、行政の果たすべき役割や行政へのニーズは複雑多様化してきています。少子高齢化や核家族化、そして人口減少が進む中、牟岐町としてはIターンやUターン、子育て世代の受け入れ体制を充実させる必要があると考えます。最近では、殆どの子育て世代が共働きであり、阿南市や、より遠方まで通勤されている方も増えてきています。牟岐保育園の時間外保育の受け入れ体制ですが、保護者の職場が本町や隣町なら、さほど問題になりませんが、遠方へ通勤されている方や急な出張・研修などがある場合の方にとって、7時50分からの受け入れでは厳しくなります。他町の現状としまして、美波町の4つの園では、保護者の就労時間に合わせ最大7時より受け入れており、また、海陽幼稚園・海陽保育所では7時30分より受け入れを行っています。牟岐町におかれましても、町の立地や保護者の通勤時間を考慮すれば、開園時間を早めるべきと考えます。そこでお伺ひします。幼児教育・保育の無償化や働き方改革などで改正、また、新型コロナウイルス対策でお忙しいところではありますが、少子高齢化や核家族化が進む本町において、より子育てサポートの充実が求められる中、保護者の通勤・就労時間に合わせ開園時間を見直し、体制を整えるべきと考えますが、ご所見をお聞かせください。それでは、次に地域防災力向上への取り組みについてお伺ひします。近年、各地における台風、水害や来るべき南海トラフ巨大地震に備える必要がある中で、最前線である牟岐町では、防災対策のため共助の主体となる自主防災組織の構築・活性化、また、避難訓練などに取り組んでおられます。徳島県では、大規模災害による死者数ゼロを目指しており、本町としても今後、より幅広く町民の防災意識の向上が求められます。地域防災力の向上に向けて、今後、地域の集まりやあらゆる団体、企業や施設など、町全体に防災意識を高める必要があります。例えば、町内の各運動会で土のう袋を積み上げて担架で運ぶ競技を取り入れてみたり、また、各イベントや祭り等で防災ブースを設けるなど、様々な取り組みが考えら

れます。行政の取り組みとしても限界がありますが、少しの工夫で効果が得られるものがあると思います。そこでお伺いします。地域によっても防災意識の温度差がある中で、防災における共助には、防災意識の向上や地域コミュニティの強化が必須であると考えます。地域防災力の向上に向け、今後どのように取り組んでいくのか、ご所見をお聞かせください。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 平山議員の保育園の延長保育について、開園時間を見直してはどうか、というご質問についてお答えします。来年度の保護者の就労状況を入園申請時に提出していただいています「就労証明書」で、確認致しましたところ、来年度、受け入れる子どもさんに関しましては、現在の開園時間でも対応できると判断しています。しかし、保育園は、途中入園のお子さんもいますので、今後、保護者のニーズが変化していくことは予想されます。そこで、平山議員のご質問をいただいた時点で、来年度の職員体制で7時30分、または、それよりも早くした受け入れが可能かどうか、開園時間を早くした際を想定し、シフトのパターンを増やし、職員の勤務時間を調整してみました。現段階の園の体制としましては、現在の保育時間・受け入れ態勢で人員を確保し、勤務時間も設定していますので、たくさんの無理が生じることがわかりました。結果としましては、来年度（令和2年度）に、開園時間を早めることは、難しいと考えています。しかし、現在のところ、保護者からの要望等はありませんが、今後、保護者のニーズの変化に応え、子育てをさらにサポートしていくために、来年度の実現は難しいですが、再来年度（令和3年度）以降に向けて、前向きに検討していきたいと考えています。次に地域防災力向上への取り組みについてお答えします。近年、台風やゲリラ豪雨などによる河川の氾濫などの水害や土砂災害など自然災害による被害が全国各地で多数発生しています。牟岐町においては、平成29年10月の台風21号による被害を除いて、ここ数年は大きな被害が出ていませんが、近い将来必ず来るといわれています、南海トラフ巨大地震による地震津波の発生では牟岐町に大きな被害をもたらすと想定されています。今後発生が予想される地震津波や水害、土砂災害などあらゆる災害に対して、町としては避難場所、避難路などの整備や備蓄品の充実、避難所対策などハード面の充実整備を粛々と進めている

ところですが。しかしながら、議員ご指摘のとおり災害に対する被害を最小限にとどめるためには、やはり町民の皆様一人一人の防災意識の向上と、地区自主防災組織や地域の消防団など防災組織の充実強化が最も大切です。これまでも進めてきました小・中学校、保育園の合同避難訓練や、防災教育、全町での避難訓練などを引き続き推進するとともに、防災講演会や研修会などの積極的な開催、各種会合等におきまして防災意識向上のための取り組みなどを推進していきたいと思っています。また、議員のご提案にあるイベントや運動会などにおきましても主催者と協議しながら防災への取り組みなどにつきましても協力を呼び掛けていきますとともに、地区自主防災会や消防団など地域の防災リーダー育成への取り組みも合わせて推進していきたいと考えています。以上です。よろしくお願いいたします。

一山議長 平山議員。

平山議員 町長より大変前向きなご答弁をいただきました。子育て世代だけではありませんが、朝の1分1秒は大変大事であります。通勤時間が長くなれば、より時間的余裕が必要になってまいります。予約制を取り入れるなど、ニーズに対応できるような柔軟な体制を整え、今後とも子育てサポートに取り組んでいただきたいと思います。昨日で東日本大震災より9年が経ちました、現在でも避難生活者が4万8千人おられ、復旧復興もまだまだ時間が必要であり、課題も様々残っている現状です。そこで大震災を教訓に新しい対策の概念が注目されているので、ご紹介させていただきます。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、フェーズフリーという概念です。こちらの参考資料をご覧ください。フェーズフリーとは、平常時と災害時という社会のフェーズを取り払い、普段利用している商品やサービスが災害時に適切に使えるようにする価値を表した言葉であります。2015年にフェーズフリー総合研究所が任意団体として設立され、2018年にそのメンバーが中心となって一般社団法人フェーズフリー協会が発足し、去年、2019年より商品やサービスがフェーズフリー性を持つことを認証する制度が始まっています。フェーズフリーは防災に関わる一つ概念であり、他分野で例えるなら、福祉対策や障がい者対策等におけるバリアフリーやユニバーサルデザイン、環境対策におけるエコのよ

うな関係であります。人々が備えることを前提としているのが防災であり、人々が備えられないことを前提としているのがフェーズフリーの概念であります。徳島県ではいち早く鳴門市がフェーズフリーのまちを目指して取り組んでおられ、2019年の広報なると11月号で特集が組まれています。とても良くできているので、後ほどご覧いただければ幸いです。少しわかりにくいと思うので2点ほど認証商品を紹介させていただきます。こういったイベントやスポーツ大会などで使われる普通の紙コップですが、特徴としましては、色分けがされていて、メモリが付いています。日常平常時には普通の紙コップとして使いますが、いざという時に計量カップとして使えるデザインとなっています。フェーズフリー認証マークが付いています。また、私も使っていますが、加圧式ボールペンと言いまして、元々は宇宙空間で使えるためのボールペンとして開発されたものなのですが、内圧が3千hPaありまして、圧力でインクを出すというシステムになっています。例えば、天井にも書けますし、氷点下でも使えます。濡れた紙にも書けるといふボールペンとなっています。このようなフェーズフリー商品を日常から使用することによって、もしもの災害時に有用となります。もちろん、備蓄品としても最適であり、価格は通常の商品と大差ありません。議会事務局に置いておきますので、手に取って見ていただければと思います。防災対策が万全である牟岐町を目指し、参考にさせていただければと願ひ、私からの一般質問を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。